（10/5）が、オタゴ、マーティンボロ、カンタベリーに植樹された。このクローンは、樹勢が比較的強く、房は中程度から大きく、収穫量は一定していなかった。

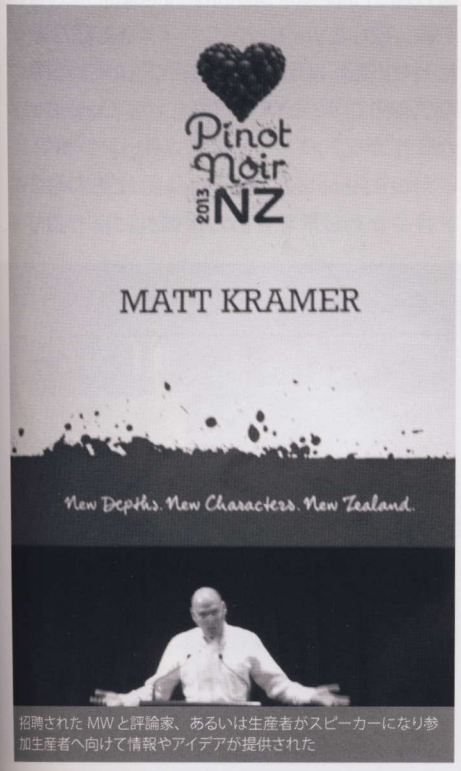
② 1970 年代の植樹

カリフォルニアの UC デイヴィスが選抜したクローン 5（そもそもの元はシャトー・ド・ポマール）が植樹のメインとなった。匍匐性のため管理が困難で、タイトな房のためボトリティスがつきやすいなどの難点があった。オタゴにはクローン 5 に続いて開発されたクローン 6 が多く植えられた。

③ 1970 年代の独自性

エイベル・クローン（Abel）として知られるニュージーランド独特のクローンが植樹された。フランス帰りのラグビー選手が、ガンブーツに苗木を隠し入れて違法に持ち帰ったもので、D.R.C. の畑から切り取ったものとされている。しかし、ニュージーランドの税関で検閲官のエイベルに押収され、エイベルは検閲後に自分の畑に植えたという。その後、当時エイベルの畑で仕事をしていたクライヴ・パトンが自らの畑（マーティンボロのアタ・ランギ）に植樹した。このクローンは、ディジョン・クローンより樹勢が強く、房も大きめで重く、成熟する時期が遅め。手をかけて栽培されたこのクローンは、独特のスパイシーな香りのする魅力的なワインに仕上がる。

④ 1980 年代後半から 1990 年代



招聘された MW と評論家、あるいは生産者がスピーカーになり参加生産者へ向けて情報やアイデアが提供された

1980 年代にフランスのレイモンド・ベルナルド教授によって選抜された、いわゆるディジョン・クローン（現在、ENTAV-INRA 国立葡萄栽培技術センターに登録されている）がニュージーランドにも入ってきた。

1988 年に B115 が輸入されたのを皮切りに、B777、B113 がマーティンボロ・ヴィンヤードに、そして B667、B114 も続いてワイララパへ到着。これらが国内に広く行き渡ることになる。中でも 667、777 は房が小さく軽く、粒も小さく、粒がまばらにつき（タイトでない）、比較的早く成熟する。777 は 828、943 と同様に糖度が高いことでも知られている。

ニュージーランドのピノ・ノワールについて「他の新世界も同様だが、クローンの数が少ないため、オーケストラのような響きにならない。より多くのクローンを植えて複雑性を出していけば、より品質が上がるはずだ」という意見が、今回のイベント・スピーカーの一人、マット・クレイマーから出た。

クローンの種類については、確かに種類が多いほど、それぞれが持つ特徴が複合して複雑性が増すようにも感じる。実際のところ ENTAV-INRA に登録されているピノ・ノワールのクローンは現在 45 種類あるようだ。しかし、そもそもピノ・ノワールはサンジョヴェーゼ同様に変異しやすい品種として知られている。モンタルチーノのビオンディ・サンティでは、優良な株を選抜登録して BBS11 としたが、後継ぎのヤコポ・ビオンディ・サンティは海岸に近いマレンマの新しい畑にそのクローンを植え「数年後にはモンタルチーノとは異なる個性になるだろう」と語っていたことを思い出す。

それを考えれば、ピノ・ノワールも同様に同じクローンであっても環境に合わせて変化してきているはずだ。また、今後も変化し続けて行くのだろうと考えられる。そうすると、特に病気への耐性、量産型ではないなどの基本的な性質は抑えておく必要があるが、あとは長年の管理と畑の中での選抜（マサル・セレクション）によって、その土地に合う株を残していくのが最も有効なように思える。

また「優良なディジョン・クローンが植えられてからそれほど年月が経っていないので、それらの樹齢が高くなってからが面白いだろう」という意見の人もいた。本当にディジョン・クローンが優勢なのだろうか。ある一定以上の樹齢になることで品質が向上するだろうとは予測できる。しかし、例えばセントラル・オタゴ

Ata Rangi 醸造長のヘレン・マスターズは人懐っこく面倒見がよく、いつも誰かと話しをしている。ピノ・ノワールだけでなくシャルドネも秀逸

の「リッポン」では、30 年前に人から貰い受けた苗木を台木もなしに植え、それ以来ずっとマサル・セレクションをしているというが、出来上がるワインの品質は素晴らしい。

また、別のスピーカーである土壌学者のエマニュエル・ブルギニオンも「ピノ・ノワールはとても不安定な品種なので、20 年から 30 年経つとその土地にとても適応した株を選択できる。きっとここでも同じことがいえるだろう」と語っていた。やはり、いかに時間と手をかけ選抜し続けていくのかが肝要ではないかと考えるのが順当ではないだろうか。

産地別・特に印象に残ったワイン

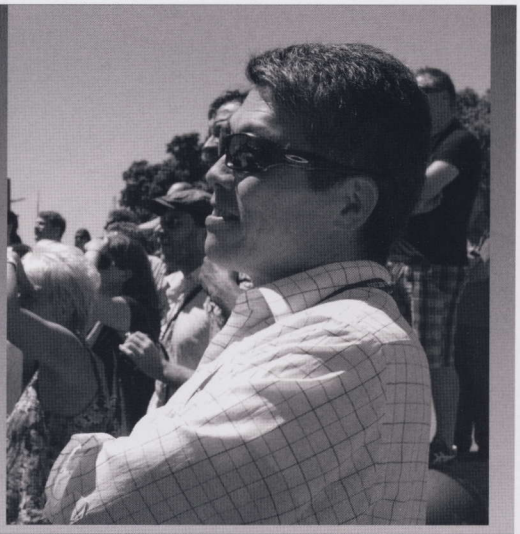
ワイララパ Wairarapa

アタ・ランギ Ata Rangi

1980 年に創立された老舗で家族経営のワイナリー。現在、末娘で快活なヘレン・マスターズがワインメーカーを務めている。きれいな酸を備えたバランスのよさについてヘレンの父クライヴ・パトンに尋ねると「ここは南からの冷たく乾いた風が入って来る場所で、昼夜の寒暖差がとても大きい。樹齢 32 年となったブドウが自分でバランスを管理してくれているから特別なことをしているわけではない。とはいえ収穫量が低いのが難点だけれど」との返答だった。エイベル・クローンの使い手としても知られているが、それはさておき、やはりこの国を代表するピノ・ノワールの造り手だと改めて感じ入った。

「2010 Pinot Noir」は、スパイスやなめし革

ニュージーランド ピノ・ノワールの全貌



Kusuda のラベルはグラフィックデザイナー麹谷宏氏によるもの。イベント最終日にお楽しみでウエリントンの海への「飛び込み合戦」が行われ湧いた。

といった複雑性のある香り、そして何よりバランスよくなめらかで、おしつけがましくない凝縮感が特徴。きめが細やかで弾力があり質感のあるワインで、後味にフレッシュささえ感じられた。

「2010 Crimson Pinot Noir」は、よりモダンな造りでたっぷりして光沢のある印象。

クスダ Kusuda

既にご存知の方も多いとは思うが、このワイナリーは 2001 年に楠田浩之が設立したもの。大学を卒業して就職した後、ドイツのガイゼンハイム大学で栽培醸造学を学んだ。ちょうどその卒業論文を書くにあたって協力をしてくれた、「シューベルト」のカイ・シューベルトがいるマーティンボロへ赴くことにしたのだと。

収穫の時期には、日本から訪れる知人友人ら 20 名弱で、3 日間かけて手摘みされたブドウを一房一房手に取りながら良質でない粒を取り除くのだという。ガイゼンハイムの卒論では、ブドウ果汁、その後のワインに存在するアミノ酸量を計測し、どのような清澄をすれば各段階でどのような数値に変化し、どのようなワインになるのか、その研究結果をまとめたという。微細なポイントにも目がいき届き「ワインは微生物の作用で造られるものですが、ワインになったらもう微生物の存在が表に出ては困る」という、楠田ならではの細かな手の入れようを象徴するひとつの作業だといえる。

伝統的なマーティンボロ・テラスとテ・ムナ・テラスの環境はとても優れているというが、風がとても強いため支柱は相当太いものを使わなければならず、せっかく誘引した枝が強風で元の木阿弥になることもある。しかし最も怖いのは開花後の遅霜。春先の遅霜はヨーロッパでもよく聞くが、日格差の大きいこの産地では開花後にも霜が降りることがある。これは、ディーゼルのガスヒーターを準備していて、天気予報である程度予測を立てて対処するという。今回スピーカーとして参加していたティム・アトキン MW やジャスパー・モリス MW がたいそう気に入って質問攻めにあっていたようだ。「あと 15 年は造ろうと思う」というけれど、「あと 15 年でいいんですか」と聞かなければならない。彼の情熱を引き継いでくれる者が出ることを強く願っている。

「2010 Pinot Noir」は、複雑性を備えた上品な香りで味わいもとてもなめらか。バランスがよくタンニンも溶け込んでいる。丁寧な造りを思わせる、質感が特徴的だ。

シューベルト・ワイン Schubert Wines

1998 年にドイツのガイゼンハイム大学で栽培醸造学を修めたカイ・シューベルトとパートナーのマリオン・デイムリングが始めたワイナリー。初めからピノ・ノワールに焦点を置くことを決め、世界各国のワイン産地を検討した後にマーティンボロで畑を購入することに決めた。理由は「各産地のワインを相当飲みました。でも、例えばカリフォルニアにしてもオーストラリアでもそれぞれピンと来るワインは片手に収まる程度だった。でも、ここはみんなよかったから」という。

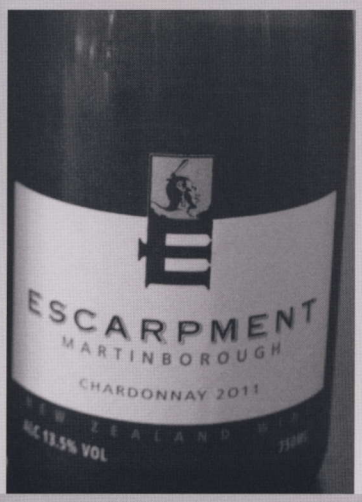
また、他のどの銘柄にもないシューベルト独自の香りについて尋ねると「果実の香りだけが出るのではなく、キノコやハーブ、肉など複雑な香りを出したいので、オープン・トップの槽で伝統的な造りを続けています。徐梗は 100% 行い、マセレーションは長めで 4 週間～ 6 週間。樽熟成は 16 か月から 18 か月」。また、「マリオン・ヴィンヤーズには 3 つのクローンが植えられていて、そのうちのエイベル・クローンがスパイシーな香りでタンニンはフェミニンだからかもしれない」という。ちなみにブロック B はディジョン・クローン 5 種を植えている。

また今年から有機栽培の認定がおりるそうだ。ビオディナミへの関心について尋ねると「あるビオディナミで栽培している畑のワイン造りを手伝っているが、結果にそれほど大きな違いはないと思うからビオディナミに変えようとは思わない」という意見だった。

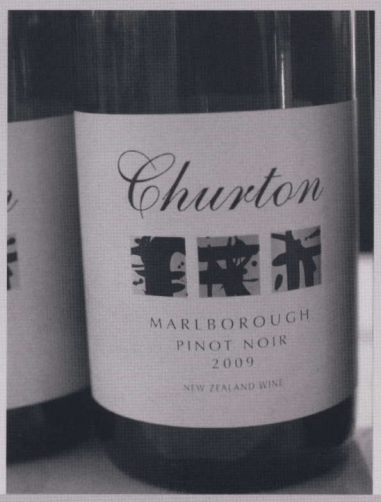
「2010 Pinot Noir Marion's Vineyard」は、ヨード香、熟したチェリー、スパイスなどが華やかに香り出る。味わいも心地よくベルベッティーな舌触り。バランスがとてもよく、エレガントな仕上がり。

「2010 Pinot Noir Block B」は、こちらもヨード香やなめし革を含めた複雑性に富む香りで、

Schubert ピノ・ノワールを造りたくてこの地を選んだので生産量の 3 分の 2 がピノ。95% は輸出している



Escarpment ピノ・ノワールも美味だがシャルドネやピノ・グリもなかなかのでき



Churton 今年の収穫は既に順調に行われ素晴らしいヴィンテージになりそうだという

Seresin 手形のラベルが印象的。ここではトスカーナ品種でオリーヴオイルも造っている

しっとりとした伝統的なワインを思い出させる。なめらかな舌触りが更に心地よい。

エスカープメント Escarpment

1999年にマーティンボロ・ヴィンヤードの醸造長を務めていたラリー・マッケーナが、妻とパートナーと共にテ・ムナ・テラスにて立ち上げたワイナリー。マーティンボロ内の単一畑の個性を打ち出したシリーズが面白い。

「Kiwa Pinot Noir 2010」は砂利質の沖積土壌の畑で樹齢は29年、クローンはUCD5、6、13の3種類。フルーティーでフローラルな香りが魅力的でソフトでなめらかな口当たり。

「Pahi Pinot Noir 2010」は、より重い土壌の畑で樹齢は29年、クローンは10/5のみ。香りは閉じ気味。スパイシーで厚みがある。

「Te Rehua 2010」は砂利の多い沖積土壌の畑で樹齢は21年、クローンは様々。ゲイミーで厚みと複雑性のある香りでストラクチャーのしっかりした力強い味わい。

その他のおすすめ：クラッギー・レンジ Craggy Range、ドライ・リヴァー Dry River、ユリハー・エステイト Julicher Estate

マールボロ Marlborough

チャートン Churton

サザン・ヴァレーの標高200mの丘にあるワイナリー。北から北東向きの斜面で土壌は粘土とレス（黄土）。栽培は有機栽培から始めビオディナミへ移行した。10種類ほどのクローンが植えられている。

「Churton Pinot Noir 2010」は厚みのある複雑な香りで、味わいは酸もきっちりバランスしているが全体にソフトな印象。

「Churton The Abyss Pinot Noir 2010」はヴィンテージがよい時だけの単一区画のキュヴェで2010年は140ケースのみ。エレガントで複雑性のある香りがし、味わいも上品で酸が心地よくとてもなめらか。

フロム・ワイナリー Fromm Winery

1992年にスイス出身のゲオルグ・フロムが始めたワイナリーで、この地での単一畑もののパイオニアともいわれている。11種類のクローンが植えられ、収穫量は30～35hl/ha。

「Fromm Pinot Noir Clayvin Vineyard 2007」はブランコット・ヴァレーの中でも粘土質土壌の区画のみを使用したもので、まろやかでゲイミーな香りがし、丸みのある果実味とソフトな酸が印象的。

「Fromm Pinot Noir Fromm Vineyard 2010」は、まだ香りは閉じタイトな状態で、果実味が充実して酸もきれいにバランスし、ストラクチャーがしっかりしている。

Frommブースの下から出して試飲させてくれたシラーもスパイシーで美味だった

セレシン・エステイト Seresin Estate

1992年にウエリントン出身のマイケル・セレシンが立ち上げたワイナリーで、ワイラウを中心に3か所に畑を所有。栽培は有機とビオディナミ。

「Seresin Estate Raupo Creek Pinot Noir 2009」は、オマカ・ヴァレーの麓にある粘土が豊かな畑でイリゲーションはしていない。アロマティックな香りには複雑性も感じられ、きめ細やかで酸がきれいな印象。

「Seresin Estate Tatou Pinot Noir 2009」は、ワイラウの西端に位置する畑で大きな石が転がる沖積土壌。こちらも酸とタンニンのバランスがよい。いずれも酸は自然なもので、SO2はわずか30-40mg/lだという。

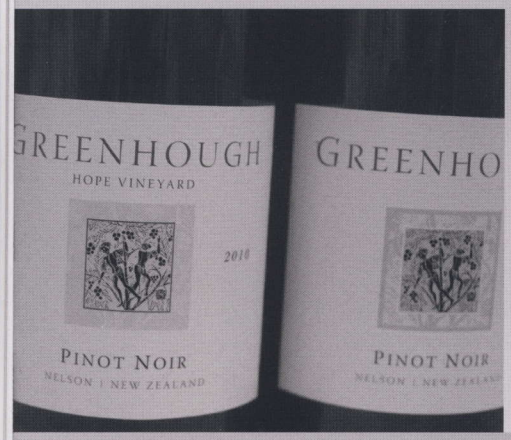
その他のおすすめ：ステート・ランド・ヴィンヤード Staete Landt Vineyards、フラミンガム・ワインズ Framingham Wines、ギーセン・ワインズ Giesen Wines、マリスコ・ヴィンヤーズ Marisco Vineyards、セント・クレア・ファミリー・エステイツ Saint Clair Family Estate、スパイ・ヴァレー・ワインズ Spy Valley Wines、アラ・ワインズ Ara Wines、アストロラーベ・ワインズ Astrolabe Wines、フォクシーズ・アイランド Foxes Island

ネルソン Nelson

グリーンホーフ・ヴィンヤード Greenhough Vineyard

1990年創業の家族経営のワイナリーで、

ニュージーランド ピノ・ノワールの全貌



Greenhough ラベルの四角い縁の中には収穫風景が描かれている

Pyramid Valley ボトルの横には畑の土が入れられたガラス瓶が置かれていたり、きれいな畑の地図も作られていて「こだわり」が感じられる

Bellhill 創立者の一人マルセル・ギーセンはマールボロの「ギーセン」の 3 兄弟の一人

2011 年より有機栽培の認証を受けた。

「Greenhough Nelson Pinot Noir 2010」は、若い樹も含めたブレンドでリキュールのチェリーやポートのニュアンスのある香りで、ソフトでしっとりした味わい。

「Grrenhough Hope Vineyard Pinot Noir 2010」は、山の麓のテラスにある単一畑の中でも樹齢 35 年ほどのぶどうを使用したキュヴェ。なめし革や熟したチェリー、スパイスなど複雑な香りでとてもなめらかな心地よい口当たり。

ノイドーフ・ヴィンヤーズ Neudorf Vineyards

マウテレ丘陵の粘土砂利質の斜面で 1978 年に開墾した畑。

「Neudorf Vineyards Montere Pinot Noir 2010」はスパイシーな凝縮感のある香り、味わいも果実味がたっぷりとした豊かなタイプ。

「Neudorf Vineyards Home Vineyard Pinot Noir 2010」は、複数のディジョン・クローンが植えられた単一畑もので、香りはまだ閉じ気味で上品、味わいはしっとりとした質感のあるエレガントなタイプ。

ノース・カンタベリー North Canterbury
ワイパラ・ヴァレー Waipara Valley

ピラミッド・ヴァレー・エステイト Pyramid Valley Vineyards

2000 年にマイク＆クラウディア・ワーシングが立ち上げたワイナリー。2.2ha の粘土石灰質の斜面の畑にピノ・ノワールとシャルドネを接木なしで 12、000 本 /ha の密植。栽培はビオディナミ。手摘みの後、手作業で除梗し、足で破砕、醸造にも何も加えず、機械を一切使用せず、熟成は古樽のみ。ここまでくればご想像の通り清澄も濾過も行わない。

「Pyramid Valley Angel Flower Vineyard 2010」は粘土石灰質土壌由来のラズベリーやチェリーなどの華やかでしなやかな香りがし、とても木目が細やかなことに驚く。

「Pyramid Valley Earth Smoke Vineyard 2010」は、より重い土壌の区画で 4 日遅く収穫するだけで造りはすべて同じ。より果実が熟したニュアンスでなめし革の香りが加わり、味わいにも厚みがプラスされるが、繊細さは共通項。

ベル・ヒル Bell Hill

2ha の畑は標高 270 m に位置し石灰質が豊かで、ピノ・ノワールを 9090 ～ 11363 株 /ha という密植を行っている。

「Bell Hill Old Weka Pass Road Pinot Noir 2010」はワイナリーのそばを通る道の名をつけたセカンドワイン的存在。凝縮感のある香りでハツラツとして、なめらかな口当たりながら酸がとてもきれいなのが印象的。

「Bell Hill Pinot Noir 2010」はフローラルで
整のとれたしっかりとした香りで、味わいは
品さも感じられるが厚みがあり、とてもなめ
かな触感。

ブラック・エステイト Black Estate

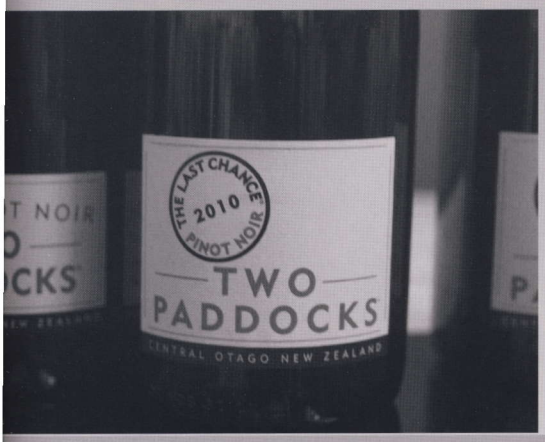
1994 年から家族経営されているワイナリー
で、創業者の奥方は日本人女性だった。ワ
パラのオミヒにある粘土石灰質土壌の斜面に
8ha の畑を所有しピノ・ノワールとシャルドネ
を植えている。栽培は、認証は有機だがビオ
ディナミからのアイデアも採用している。醸造
については、実際の収穫開始 1 週間前に少量
のブドウを摘んで酒母のようなものを造り、そ
れを使用して発酵を促す。特に温度コントロー
ルはしないが 28℃ほどで約 28 日間の発酵を
行う。酵素なども一切加えないという。

「Black Estate Omihi Series Pinot Noir 2010」は
スパイシーでフローラルで華やかな香りがし
なめらかで一体感のある心地よい味わい。

「Black Estate Pinot Noir 2010」は、よく熟したチェ

Neudorf ノイドーフはドイツ語の「新しい村」という意味で世界中に何か所もある。このノイドーフ村は、チーズでも有名

Black Estate 創業者の奥方は日本人女性でクミコさんという名前だった



TwoPaddocks　サム・ニールはジュラシックパークの主役・グラント博士を演じた俳優で奥方は日本人女性ノリコさん

FeltonRoad 香りの華やかさが印象的で「どうしたらこういう香りが出るのか?」と尋ねたら、「わからない」と言われた。その流れで「過熟しないように」収穫しているという言葉が出てきた

Valli 個人的にはタイトなワイタキの方が気に入ったが、ブースで注いでくれた女性は驚いていた様子。プルゴーニュを飲みつけている日本人にはワイタキのほうがなじみ深いのではないだろうか

リーなどの果実の香りが主体となり厚みがあり豊かなタイプ。バランスがとてもよい。

その他のおすすめ：ベルバード・スプリング Bellbird Spring、ザ・クレイター・リム The Crater Rim、マウントフォード・エステイト・ヴィンヤード＆エステイト Mountford Estate Vineyard & Winery

セントラル・オタゴ Central Otago

トゥー・パドックス Two Paddocks

1993 年にサム・ニール（ジュラシックパークの主演俳優）によって立ち上げられたワイナリーで奥方は日本人女性。ギブストンの小さな畑で植樹したことに始まり、その後アレクサンドラで 2 か所に畑を購入。2008 年に有機栽培の認証を取得した。

「Two Paddocks Pinot Noir 2010」は 3 か所の畑のブレンドで熟したチェリーのバランスよい香りで、しっとりとした触感が心地よい。

「Two Paddocks The First Paddock Pinot Noir 2010」は、標高 400 mにある最初に植樹したギブストンの畑のもののみで良いヴィンテージだけリリースする。少し香りは閉じ気味ながら、果実となめし革やスパイスが融合し、バランスよく芯のある味わい。

クオーツ・リーフ Quartz Reef

ベンディゴで、1996 年にオーストラリア出身のルディ・バウアーが設立したワイナリー。30ha の畑に大きなクオーツ（水晶）がたくさん埋もれていることからの命名で、栽培はビオディナミ。すべて手摘みで収穫し、ワイナリーはグラヴィティー・フロー。5 日～7 日の低温浸漬の後、自然酵母による発酵で温度管理は行わない。マロラクティックも自然に行う。

「Quartz Reef Pinot Noir 2010」は整然としたハリのある香りで、なめらかで心地よい触感。酸も適度。

「Quartz Reef Vendigo Estate Pinot Noir 2010」は、15ha の斜面の畑からのセレクション。ベリー系の香りが華やかで、シルキーなタッチが心地よくバックボーンもきっちり。

フェルトン・ロード Felton Road

バノックバーンで 1992 年から植樹を始め、区画や畑ごとのシリーズで知られている。2002 年から有機とビオディナミによる栽培を始め、2010 年にデメテールの認証を取得。イリゲーションは必要な時にのみ施し、収穫は過熟しないようにタイミングをはかっているという。クローンはディジョン、エイベル、UCD、10/5 など多種類を用い、一部は台木なしで植えている区画もある。

「Felton Road Pinot Noir Bannockburn 2010」は、3 か所に所有する畑のブレンドで、アロマティックな香りが魅力的で、なめらかで質感のあるバランスよい味わい。

「Felton Road Pinot Noir Block 5 2010」は、ザ・エルムス畑の粘土が豊かな区画で、温かみのある香り、なめらかで豊かな深みのある味わい。

QuarzReef ボトルとともにあるのが畑の中にゴロゴロしているクオーツ

ヴァリ・ヴィンヤーズ Valli Vineyards

1993 年からこの地でワイン造りを行ってきたグラント・テイラーが 1998 年に立ち上げたワイナリーで、畑はギブストンに 3.5ha を所有。ノース・オタゴのワイタキ、セントラル・オタゴのバノックバーンやベンディゴのブドウも扱っている。収穫日はバノックバーンでは 3 月末から 4 月上旬、ギブストンでは 4 月半ば、ワイタキでは 5 月半ばになる。

「Valli Gibbston Vineyatd Pinot Noir 2010」は、なめし革や熟したチェリーを感じる厚みのある香りで、味わいは酸のバランスもよいがボリューム感もある。

「Valli Waitaki Vineyard Pinot Noir 2010」は、タイトで凝縮感も感じられる香りで、バランスよくなめらかで、酸がしっかりとして芯のある味わい。

その他のおすすめ：リッポン Rippon、マウント・エドワード Mount Edward、チャード・ファーム・ワイナリー Chard Farm Winery、オストラー・ヴィンヤーズ Ostler Vineyards ◆